

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学 術)	氏名	佐々木 智
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 タイにおける精米業の発展 ～産業機械史とポストハーベスト工程の視点からの考察～			
論文審査担当者			
主 査	教 授	山 尾 政 博	
審査委員	〃	実 岡 寛 文	
	〃	上 野 聡	
	准教授	細 野 賢 治	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文の目的は、タイにおけるコメの産地市場流通と消費地市場流通を結節するコメ加工業（精米業、コメ輸出業）に着目し、コメのポストハーベスト技術と産業機械史の視点から、コメの流通構造の歴史的変遷を考察し、今後の展望を明らかにすることである。課題は、第1に、タイにおけるコメ加工業者の発展過程を先行研究にもとづき検証し、彼らの役割とコメ流通の変遷を明らかにすることである。第2に、コメのポストハーベスト技術の史的発展と各工程の機械ならびにそこに用いられている機械設備の特徴を明らかにすることである。第3に、コメのポストハーベスト工程の現状を把握し、精米工場と再搗精工場の機能と役割について解明することである。第4に、コメのポストハーベスト技術の視点から、2000年代以降のコメの流通とコメ加工業の構造変化を明らかにし、コメ加工業が将来的に求められる課題を展望することである。</p> <p>第1章では、研究の問題背景に加えて、世界の主食を担うコメの位置付けと加工特性について述べた。コメ加工業（精米業とコメ輸出業）を論ずる上で、ポストハーベスト技術を検討することの重要性について言及した。</p> <p>第2章では、ポストハーベスト技術の視点から、コメ加工業者（精米業者・コメ輸出業者）の役割とコメ流通の変遷を概観した。伝統的な精米技術が用いられていた時代から現在までを画期区分し、それぞれの画期ごとにコメの流通構造を概観し、コメ加工業とポストハーベスト工程の発展を分析した。</p> <p>第3章では、聞き取り調査をもとに現在のポストハーベスト技術を把握し、1920年代以降に確立された精米技術と機械設備と比較検討することによって、ポストハーベスト技術の史的発展と各工程の機能ならびに特徴を明らかにした。戦前期のコメのポストハーベスト技術と現在の工程とを比較検討し、機械開発の歴史とタイへの導入時期を推測し、ま</p>			

た、ポストハーベスト工程の変化がコメ流通に与えた影響を考察した。

第4章では、スパンブリ県2ヶ所、パトンタニ県1ヶ所、合計3ヶ所の産地精米工場の現地調査の内容を分析した。調査対象精米工場の操業状況について分析し、精米工場の機能とそれぞれの工場がもつポストハーベスト技術の特徴を検証した。精米業の構造変化を誘引した要因が明らかにされた。

第5章では、サムットプラカーン県、アユタヤ県、バンコクに位置する合計3ヶ所の再搗精工場の実態分析である。従来あまり着目されることのなかった再搗精工場の加工工程や輸出工程における役割などを分析した。産地精米工場との分業体制を明らかにしたことで、今後のコメ流通に起こりうる変化を予測することができた。

第6章では、ポストハーベスト技術の視点から、2000年代以降のコメの流通とコメ加工業の構造変化を読み解き、タイにおけるコメ加工業が将来的に求められる課題を展望した。コメ流通とポストハーベスト技術の関係性を改めて確認し、技術発展が果たした役割を検証した。産地精米工場と再搗精工場の両者によって成り立つポストハーベスト工程の今後の展開を予測した。

本論文によって、タイでは精米工場と再搗精工場との間の分業関係が発展していたが、将来的にはコメ輸出業を頂点とした産地精米業や生産者の系列化や統合が進む可能性があることが明らかにされた。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。